

令和2年度

学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校清水分校

学校長名：戸川しをり

めざす学校像
育てたい生徒像

・地域の教育資源を最大限に活用した、分校ならではの特色ある学校。
・様々な体験を通じて、自然環境保持や社会環境づくりに積極的に関わる生徒。

本年度の重点目標

(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)

1

生徒の実態に即したわかる授業を実践し、個々の学力を確かなものにする。

2

キャリア教育を充実し進路意識を高めるため、個に応じた指導を徹底する。

3

基本的生活習慣の確立と規範意識高揚のため、身だしなみ・マナー指導を徹底する。

4

学校開放や地元学校との交流に努め、地域に根ざした学校づくりを推進する。

中期的な目標

・生徒数減少にともなう学校行事・特別活動の活性化への工夫
・入学生徒の増加に向けて情報発信地域の拡大
・進学希望生徒のための補習体制の確立

学校評価の結果と改善
方策の公表
の方法

年度末に、生徒・保護者等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、インターネットのホームページに掲載する。

達成度

A

十分に達成した。
(80%以上)

B

概ね達成した。
(60%以上)

C

あまり十分でない。
(40%以上)

D

不十分である。
(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。

2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。
5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。

自己評価

重点目標

番号

現状と課題

評価項目

具体的取組

評価指標

年度評価(4月2日現在)

評価項目の達成状況

達成度

次年度への課題と改善方策

1

在籍している生徒は、家庭事情、その他の要因で学力差が大きい。従って個に応じた学力向上と基礎学力の定着、また家庭学習習慣をいかにつけさせるかが課題である。

・教員が授業改善を積極的に行い、生徒の実情に合った授業づくりが行われているか
・生徒の主体的な学習、基礎学力の定着につながる取組がなされているか

授業改善への取り組み
ICTを活用した授業への取組
生徒による授業評価を実施し効果的にフィードバックする
SHRや放課後を活用した学力向上のための取組
定期的な家庭学習課題の作成

実施教員を50%にする
改善・検証会議を2回開催
学び直し(数学)・漢字学習及び小テストの実施
年間指導計画に基づく家庭学習課題(宿題)の実施

Zoomを活用した授業に取り組んだが、全員が使いこなせるまでには至らなかった。教材や授業を工夫することで、生徒の学力に応じた教科指導に取り組むことができた。SHRや放課後を利用し、基礎学力定着のための漢字学習や学び直し(数学)への取り組みを実施し、成果を上げることができた。

B

Teams等の活用法について研究する必要がある。
中学校時、不登校であった生徒の学力向上が課題で、引き続き個に応じた指導、基礎学力定着のための取組が必要である。

2

地域性や情報不足から進路意識に乏しく、メンタル面での弱さを感じられる。町外に出ることが少ないため何事も経験不足であり、将来を視野に入れた自覚促進が課題である。県外を含めた幅広い進路選択を意識させる必要がある。

・生徒の進路決定について、生徒・保護者の希望が充分反映されたか
・進路保障について十分な取り組みがなされているか
・講演を聴講する機会を設定しているか

三者面談等の実施を通じて十分な意思疎通を図る
就職に向け、徹底した面接指導の実施
インターンシップや起業家による講演の実施
進路実現への取組
1年次から継続した週2回の7限補習の実施、就職用問題集への取組

進路決定率100%達成
・想定問答の作成
・管理職による面接指導の実施
生徒の希望する企業にもよるが町外企業でのインターンシップの実施ができているか
・特別補習等の実施
・認定テストの実施

3年生3名が全員就職希望であり、担任・進路指導部が連携を図りながら個人面談を繰り返し実施した。また、進路指導計画に基づき補習・模擬面接等を行い、全教員が役割分担をして指導した。3名とも就職内定を得ることができたが、1名が就職後の生活に不安を感じ辞退した。

B

離職率を下げるような取り組みが必要である。
新3年生は3名とも進学希望であるが、基礎学力の定着が十分でない生徒たちである。このため、基礎学力を定着させながら学力向上を図る必要がある。また、精神的な弱さがあるため、面接指導も必要である。自分に合った進学先を選択できるよう指導を進める。

3

分校であり近隣地域の純朴な生徒が多く、問題行動も少ないが、惰性に流されがちである。さらなる発展を目指す活気づくりや向上心の醸成が課題である。

生徒への指導が全職員一体となっているか

保護者と連絡を頻繁にとり、生徒の情報について教職員間で共通理解を図る
・挨拶の励行、服装指導の徹底
・規範意識の向上
地域関係諸機関との連携

常に生徒についての情報交換を行う
・校門指導の徹底
・授業中のマナー指導
・職員・地域との街頭指導
・単車通学生への安全教室

教員間の意見交換や情報共有により、生徒一人ひとりの行動や家庭環境を把握し、一貫した指導・臨機応変な対応を行うことができた。少人数であることを生かしたきめ細やかな指導ができた。

A

不登校や家庭環境に問題を抱えた生徒が多い。今後とも地域や関係機関と連携して問題解決にあたりたい。

過疎・少子化が進み、入学してくる生徒数が減少している。分校存続に向けて、地域と連携しながら様々な取組を実践していくことが課題である。

・魅力ある学校にするため、地域と連携した積極的な取組がなされているか
・分校での活動に誇りを感じて、帰属意識を高めるための具体的指導が展開されているか

・地域の人的・物的資源を学校の教育活動に取り入れる
・高齢者や地域の方々との交流の機会を設け、地域の課題と向き合い、高校生としてできる地域貢献をする
・地域小中学校との連携を進め職員・生徒間の交流を図る
・情報発信を積極的に行う
・他校生徒会との交流を進める

・外部の教育機関との連携授業の実施
・学期1回以上地域の事業に参加する
・学期1回以上の小中学校訪問や職員・生徒間の交流
・毎月マンスリータイムズの地域回覧の実施

地域イベントへの参加に積極的に取り組んできたが、今年度は新型コロナの影響でほとんど参加できなかった。
地元小・中学校との交流も活発に行い、中学校との合同運動会、小学校との稲作体験等も企画したが、実行できなかった。

B

生徒数の減少に伴い、様々な活動への参加について負担感が増している。取り組みの内容を精査するとともに、地域と協議してイベントの効率化を図りたい。

学校関係者評価

令和2年12月17日実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

在校生・保護者を対象に、具体的な項目を挙げたアンケート形式の学校評価を実施した。
地元保育所、小・中学校との交流、ボランティア活動などの地域貢献等、積極的に続けてきた結果、ある一定の評価を頂くことができた。
今後、さらに生徒数が減少するので、地元の町内だけでなく、有田郡の他の市町に分校をアピールし、生徒数を増やしていく取組が必要である。